

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の意見を発表することが苦手な生徒が多い。 ○漢字テストに対して、意欲的に取り組む生徒が多い。一方、文法事項の定着と語彙力に課題が残る。 ○根拠を明らかにしてテーマに沿った文章を書く力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを発表する機会を多くとり、生徒が自ら学びを深められるようにする。タブレット端末を効果的に活用し、自分の考えを発信したり、他者の考えに触れたりして、思考を広げ深めるようにする。 ○引き続き小テストを定期的に行い、定着を図る。言葉への意識を高め、語彙力向上につなげる。 ○文章を客観的に捉え、見方・考え方を豊かにするように課題設定をする。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○資料を読み取り、思考を深める問題に苦手意識をもつ生徒が多い。 ○考えを深めるグループワークに関して、具体的に意見を言うことが苦手な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ICTを活用し、視覚的に訴える発問や、資料を活用した発問を日々の授業の中で取り入れる。 ○活動の前に資料を読み取る際のポイントを伝え、生徒の思考を深めやすい環境を整える。 ○グループワークの際に、話し合いのポイントや進行の仕方等を伝え、生徒が見通しをもって、活動に取り組めるようにする。 	
数学	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本的な「知識・技能」の習得については、課題のある生徒が多い。 ○「数学的な見方や考え方」を伸ばす指導の工夫が必要である。 ○自主学習の教材については取り組むことができるが、反復練習したり理解したりするまでに至っていない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○机間指導、ワークシート等の活用を通して、基礎・基本的な「知識・技能」の定着を図る。また、単元テストや定期考査を通じて、生徒のつまづきを発見し、的確な助言や指導を行う。 ○習熟度に応じて、発展的内容を取り入れる。1つの課題を深く検討する時間を設けるだけでなく、類題等にも触れる中で思考力・判断力・表現力を伸ばす工夫をする。 ○自主学習にどのように取り組めばよいのかを指導し、適宜振り返りをする機会をつくる。また、反復練習することを促していく。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査の結果から、理解力の高い生徒と低い生徒に二極化している様子が見られる。 ○主体的に理科を学習しようとする姿勢が身に付いていない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○タブレットPCを活用して、分かりやすく教材を提示するとともに、個々のペースに合わせて学習を進められるよう指導方法を工夫する。 ○生徒同士で教え合う機会を増やす。 ○授業内で身近なものとの関連を伝え、理科への関心を高める。 ○生徒の取組に関する評価をこまめに行い、フィードバックする。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○歌いたい気持ちはあるが、歌唱に取り組んできていない期間が長かったので、歌唱の発声法が身に付いていない。 ○楽譜に書かれているリズムを自分の力で読めない、使いたいリズムと楽譜が一致しないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○楽譜に書かれている記号を理解し、身体の使い方や呼吸の仕方などを、丁寧に繰り返し指導して、体得させる。 ○タブレットPCでの創作を活用して、取り組みやすくする。基本的なリズムパターンを使ったリズム作曲や、繰り返しリズム読みを行うことで、リズムと楽譜を一致させ、リズムの読譜力がつくようにする。 	
美術	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的に美術を学習しようとする生徒が多いが、集中力が持続しない傾向が見られる。 ○想像することや発想力に課題がある生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ゴールを明確に示すことで、学習内容に見通しをもたせる。一人一人に助言をし、自信をもたせるようにする。 ○タブレットPCおよび学校図書館を活用し、資料から作品のイメージをすることができるよう助言する。 	
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ○習得した知識を基に、自己の考えたことを相手に伝える場が少なく。 ○自己の課題を改善するための具体的な方策を導き出すことができていない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ペア学習やグループ学習など、仲間と協働しながら活動する時間を増やす。 ○知識を習得できていないことが考えられるため、毎授業の導入と終わりに前時の復習と本時の振り返りを行う。また、学習ノートにそれらを記入する欄を作ることでアウトプットを習慣化し、それを知識の習得に繋げる。 	
技術家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○体験的な学習活動に対する興味関心が非常に高く、内容についてもより良いものを目指して最後まで取り組もうとする。 ○知識と技能が連動していないことで、「分かる」と「できる」が繋がっていない。 ○表現する方法を難しく考えてしまうことで、活動を諦めてしまったり、意欲が続かなかったりして、学力が定着しない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ICTを活用し、資料や作業の進め方の例を提示して目標達成までをイメージさせ、理解が技能につながる支援をする。また、繰り返し声をかけるとともに時間設定を工夫する。 ○粘り強く学ぶ動機や内容理解を促すきっかけをつくるため、体験的な学習や動きの出る作業を短時間でも設定していく。 ○生タブレットPCやデジタル教科書等を活用し、興味関心を高め、主体的な態度を育成する。また、学習内容に見通しをもたせて理解を深める。 ○様々な情報を得た上で、知識を活用しまとめていく力を伸ばす工夫をする。 	

<p>外国語</p>	<p>○日本語の語順を英語にも適用する傾向がある。母語が第二言語に影響を及ぼしている。</p> <p>○口頭での英問英答の際、単語で答えることはできるが、主語・動詞からなる文章で答えることが難しい。</p>	<p>○日本語と英語との文法的な違いを意識させ、演習活動を増やし、基礎力の定着を図る。また、単元ごとに振り返りテストを行うことで、生徒が復習する場面を設定する。</p> <p>○ALT との会話テストやスピーチ、タブレットを使用したプレゼン活動などのパフォーマンステストを取り入れていく。そうすることで授業の振り返りや実際の場面に則した形での学習が可能になる。</p>	
------------	---	--	--